

Richmond Food Bank

「食べものがない」ということ

フードバンクとは食品企業の製造工程で発生する規格外品などを引き取り、福祉施設等へ無料で提供する団体や活動のことである。

ここ、リッチモンドはバンクーバー市南部に接する BC 州の都市である。バンクーバー国際空港があり、商業・農業も盛んなこの地は、一見すると経済的に非常に恵まれているように見える。しかし実際には、その日暮らしをするのがやっとな人も多勢いる。彼らは、食べるものがなく、日々飢えと戦っている。

Richmond Food Bank はこのような人々を救うために 1983 年に設立された。設立当初から現在まで、政府からの援助は受けずに、ボランティアと寄付で成り立っている。



Picture 1 the front entrance

フードバンク事業

Richmond Food bank では、缶詰やインスタント食品、幼児用ミルクといった日持ちのする食品はもちろんのこと、オムツやシャンプーといった日用品も配布している。これらの食品や日用品はスーパーや学校、工場のからの寄付で集められている。

そしてここには多勢のボランティアが働いている。しかし、彼らの仕事は食品・日用品の仕分けや包装だけではない。訪問者に配布した食べ物の調理法を教え、栄養学の基礎を学ばせ



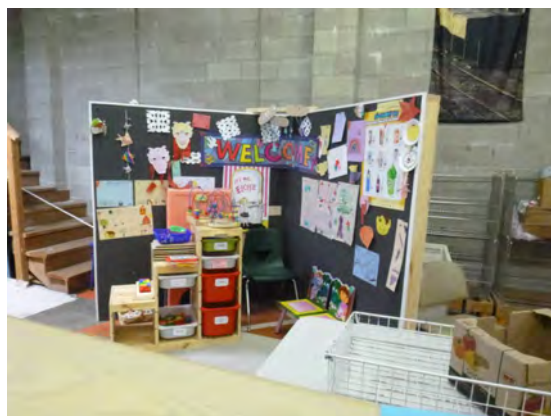
Picture 2 the stock of foods

る。また子供の訪問者も多く、移民の場合「読み書き」ができない者も多い。ここではそういった子供のためにボランティアが「読み書き」や簡単な「計算」を教えたりもする。仕事のない人に対してはメンタルケアを行い、就職支援を行う。血圧を測るといった保健的なサービスも行っている。老人や体が不自由な人といったフードバンクに直接来ることができない人に対しては、訪問サービスも行っており、孤独死防止にも役立っている。

フードバンクの役割

フードバンクを訪問するのに特別な基準や条件は存在しない。「来たければ毎日来ればいい。しかし、ほとんどの人は毎日やって来ない」とマーガレットさんは語った。

「訪問者の多くは自立できることを望んでいるのです。そして彼らにはそれを可能にする力がある。」



Picture 3 the kid's room



Picture 4 Ms. Margaret

フードバンクの目的は「恵まれない人」を救うことである。それは、ただ単に生活に必要な物資を供給することだけではない。訪問者には、人によって様々な背景があり、その多くが社会的な「つながり」を失ってしまった人々である。フードバンクを利用することで人と人が「つながり」を持つようになる。そして、その「つながり」を通じて、また社会に戻っていきけるようにすることこそがフードバンクの役割でもある。

感想

私自身は、日本にもフードバンクがあるにもかかわらず、事前学習まではその存在を全く知らなかった。日本ではちょうど「生活保護」が問題になっていたため、このような手当を受けている人たちに対してあまりいい印象を持ってはいなかった。しかし、ほとんどの人が自立を目指し、頼りきらないようにしていると知り、自分の見解が間違っていることを知った。

自身はこういったボランティアにはほとんど参加したことがないため、機会があれば参加したいと感じた。



Picture 5 集合写真